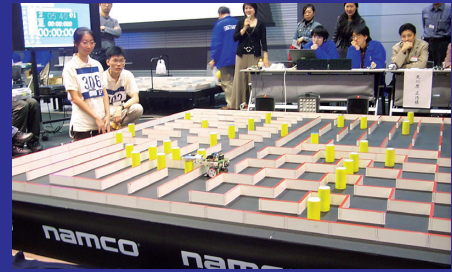


# 新ルールと新競技が登場！ マイクロマウス 2005 — 第 26 回全日本マイクロマウス大会 —

主催:財団法人 ニューテクノロジー振興財団  
http://www.robomedia.org/



2005年11月25～27日(25日は試走会)、東京都江東区有明の「パナソニックセンター東京」にて、財団法人ニューテクノロジー振興財団主催の「マイクロマウス 2005 (第26回全日本マイクロマウス大会)」が開催された。同大会は、今年で26年目という長い歴史を持つ。第26回を迎える今回は、「マイクロマウス競技」「ロボットレース競技」「マイクロクリッパー競技」という3つの競技に加えて、2006年度大会に向けて新競技がアナウンスされるなど、さらなる盛り上がりを見せていた。

まつばら たくや  
松原 拓也/(有)ニコ

## マイクロマウス競技 エキスパートクラス

### マイクロマウス競技とは

マイクロマウス競技とは、マウス(ロボット)を使って迷路を走破するタイムトライアル競技だ。使用する迷路は、縦横16×16区画で構成される(1区画あたりのサイズは18×18cm)。スタートは迷路端の1区画、ゴールは中心の4区画に割り当てられている。

最大の特徴は、マウスが自力で迷路を解くということ。その戦略としては、まずマウスが壁を調べ(探索走行と呼ぶ)、ゴールまでの最短コースを全力疾走する(最短走行)というのが一般的だ。最近ではわずか6～7秒で走破するマウスが登場するなど、要素技術が格段に向上している。

マイクロマウス競技は、初級者か上級者かによって「フレッシュマンクラス」と「エキスパートクラス」の2つの部門に分かれている。選手層は幅広く、企業のエンジニアから高校生までとさまざまだ。

### フラッシュ撮影を解禁！

前回に宣言された「より明るい場所で競技を行いたい」という言葉のとおり、今回からマイクロマウス競技エキスパートクラスの決勝に限って、次の2点が変更された。まず、天井のスポットライトが増設され、迷路周辺が2～3倍明るくなった。そして、会場内でのフラッシュ撮影が許可された。競技のショー的な要素を強めつつ、マウスの耐久力も引き上げていく、運営側のこの決断には驚かされる。

ただし、客席側で少し遠慮が働いたのか、実際の競技中にフラッシュ撮影が使われたのは最初の数回のみ。相当な覚悟で望んだ参加者達にとっては拍子抜けの結果となっ

た。一方、強化されたスポットライトは目が慣れてしまうため、明るさの違いをあまり実感できなかった。

### 0.1秒の熾烈な戦い

エキスパートクラス予選には67台がエントリー(前回より8台増)、このうち57台が出走、43台が完走した。ここからさらに成績優秀者が選抜され、地区大会のシード選手を加えた22台が決勝に挑んだ。

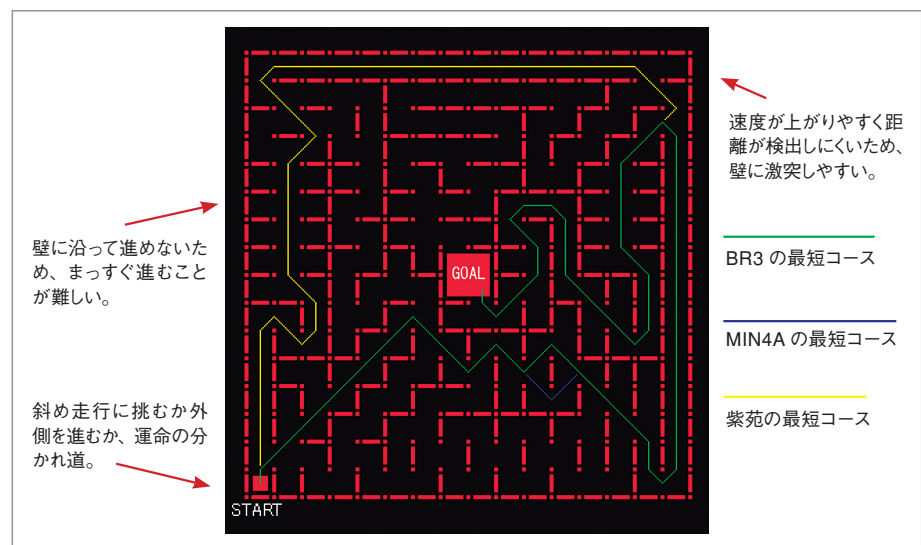
決勝ともなると、マウスの技術レベルも非常に高い。探索走行でのスラローム走行(カーブを描くような移動方法)や、最短走行での斜め走行(区間を斜めに移動する方法)が当たり前のように展開される。ジャイロセンサや加速度センサを搭載したマウスも多い。

なお、マウスの戦略にはそれぞれ個性があ

る。「BR3」「MIN4A」「紫苑」の最短コースがすべて同じではなかったことが興味深かった。

もっとも劇的な展開を見せたのは終盤。予選2位だった「BR3」は2回続けてのリタイヤ後、探索走行に時間を使いすぎ、残りタイム10秒という状態に追い込まれる。しかし、このギリギリの状況の中、最短走行を遂げ、7秒463という最高記録を叩き出した。

その後、予選第1位の「MIN4A」が追い上げるが、ここでスタート時にマウスの速度が上がらないというトラブルが発生。これによって約0.2秒というトップとの差が埋まらず、「BR3」が優勝を果たした。なお、トラブルの原因はプログラムの不具合で、ロスした時間は0.5秒だという。ミスさえなければ優勝確実だったわけで、改めてこの競技のシビアさを思い知らされた。



マイクロマウス競技エキスパートクラス決勝の迷路。ジグザクと直線を多用した過去最高難易度のコース。